



2015年度 第1四半期 決算説明資料

2015年5月8日

サッポロホールディングス株式会社

URL <http://www.sapporoholdings.jp>

1. 2015年度 第1四半期 トピックス

2. 2015年度 第1四半期 決算概況

参考資料：

- ① サッポログループ経営計画 2015年－2016年
- ② 2015年度 第1四半期 決算補足（事業別概況）



1. 2015年度 第1四半期 トピックス



SAPPORO

2015年度 第1四半期 ～グループトピックス～

駆け込み需要の反動

- 前年の消費増税前の駆け込み需要の反動により国内ビール類総需要は前期比90%となった。
- さらに、新ジャンル、機能系での競争が激化し、当社ビール類売上数量は総需要を下回った。

強みの伸長

- スタダードビール「黒ラベル」は好調な業務用を背景に総需要を上回る。
- 国内飲料業界では前期比96%となったが、強みのレモン飲料を大きく伸ばし（前期比137%）当社国内飲料は前年並みの売上数量をキープ。
- 「銀座5丁目再開発計画」では、2016年の竣工に向けて建築工事に着工した。

選択と集中

- 選択と集中を継続。好調な市況と将来の収益性を勘案し「渋谷桜丘スクエア」を売却。
- 「カントリーピュアフーズ」を2月より連結開始、アメリカ飲料事業を強化。



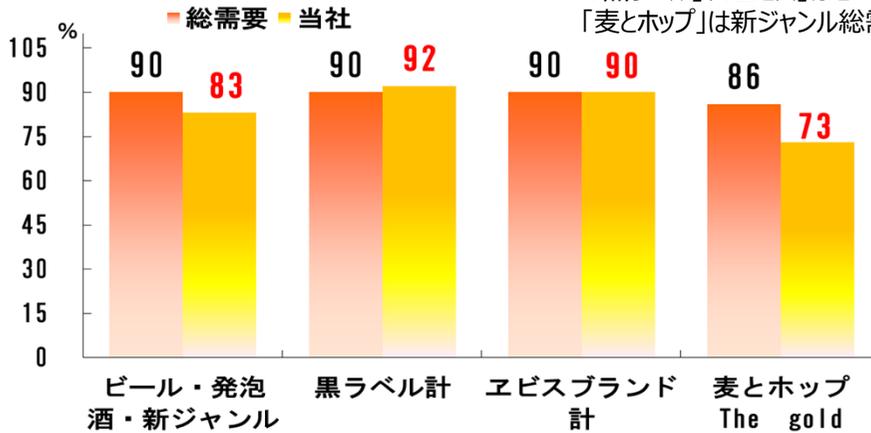
SAPPORO

2015年度 第1四半期 事業別トピックス (1)

国内酒類事業

ビール類 (ビール・発泡酒・新ジャンル) 販売数量 前期比83% (総需要 前期比90%)

ビール類売上数量前期比 (1~3月)



※「黒ラベル」、「エビス」はビール総需要
「麦とホップ」は新ジャンル総需要と比較

<基軸3ブランド>の概況 「駆け込み需要」の反動

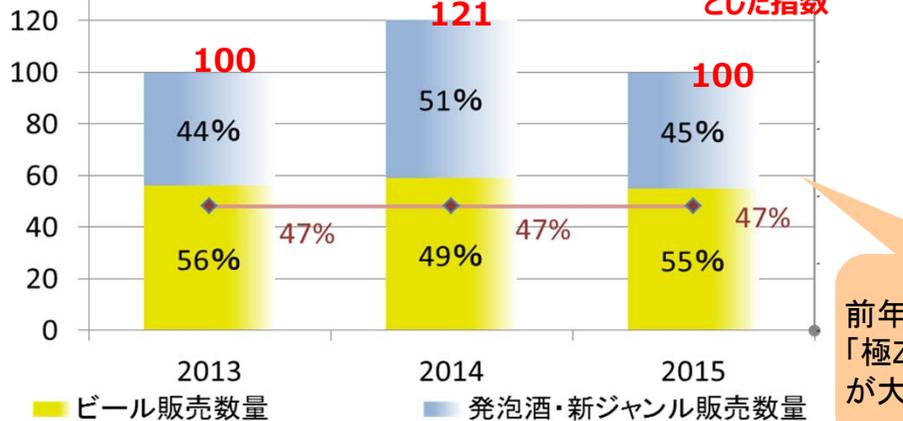
- 「エビス」堅調に推移、「黒ラベル」好調な業務用を背景にビールの総需要を上回る
- 「麦とホップ The gold」前年同期の駆け込み需要及び前年2月のリニューアルの影響で総需要を下回る



ビール類1~3月上金額 (酒税込み)

(億円)	2014年	2015年
ビール	299	278
発泡酒	9	36
新ジャンル	183	107
合計	492	422

“ビール”、“発泡酒+新ジャンル” 構成比



2013年=100
とした指数

<新提案の状況>

「極ZERO」 機能系でニーズが分散、数量減

➔ 2月製造分より3つの「ゼロ」(人工甘味料ゼロ)



5月より発売

史上初
ノンアルのトクホ
「サッポロプラス」



前年は「駆け込み需要」
「極ZERO」で新ジャンル
が大きく伸びた



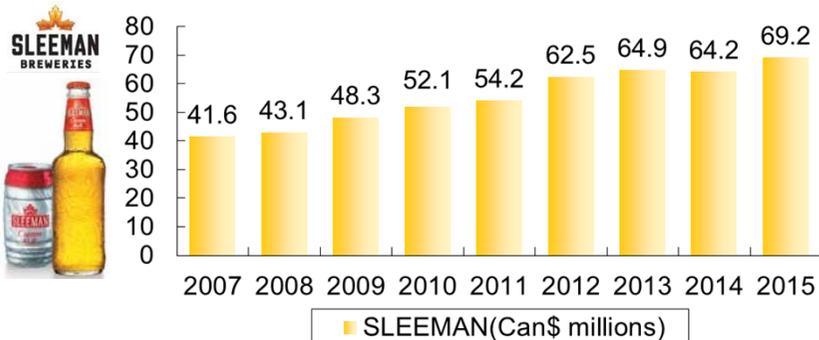
SAPPORO

2015年度 第1四半期 事業別トピックス (2)

国際事業

<北米> ▶ 前年は競争激化（カナダ）、天候不順（北米）あったが、第1Qは正常化。順調に売上伸ばす

スリーマン：現地通貨売上高（連結消去前）の推移（1～3月）



<スリーマン社（カナダ）>

- ▶ 前年、バリュー商品の価格競争激化、本年、プレミアム価格は上昇傾向
- ▶ **売上高は前期比108%・前々期比107%**
- ▶ **売上数量は前期比プレミアム106%・バリュー102%**

(1～3月)

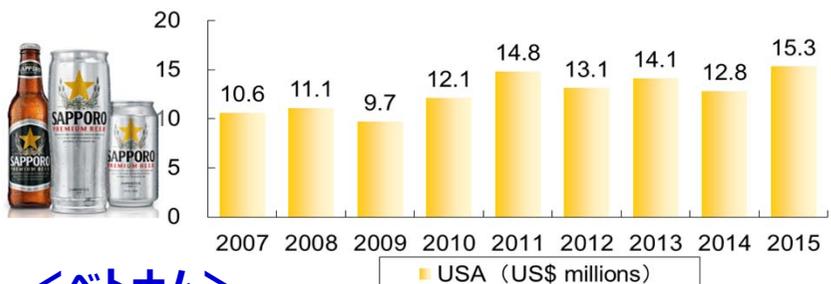
売上数量前期比	14年	15年
SLEEMAN社※1	98%	103%
カナダ総需要	97%程度	99%程度

※1 サッポロブランド除く

売上数量前期比	14年	15年
USA社※2	87%	118%

アメリカ総需要：横ばい ※2 サッポロブランド

サッポロUSA：現地通貨売上高（連結消去前）の推移（1～3月）



<サッポロUSA社（米国）>

- ▶ 前年、寒波により配送遅延発生、本年は正常化
- ▶ **売上高は前期比120%・前々期比109%**

<サッポロベトナム社>

- ▶ ブランド構築・販路拡大に向け販促費積極投入を継続
- ▶ **売上数量前期比108%（ベトナム国内）**
- ▶ ASEAN加盟国7カ国を含む11カ国に「サッポロ」ブランド輸出

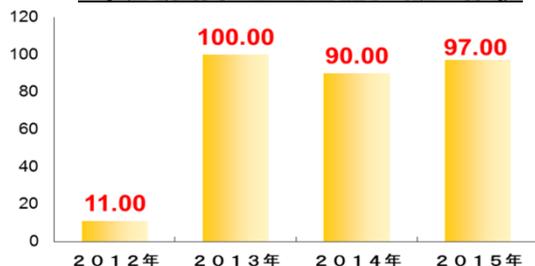
<ベトナム>

2013年=100

とした指数



ベトナム国内 1～3月売上数量推移



<アメリカ飲料事業>強化

「カントリー ピュア フーズ (CPF)」を2月より新規連結（51%出資）

- ▶ 「シルバー スプリングス シトラス (SSC)」(51%出資) と合わせ、売上高は300億円規模に（前年度通期実績）
- ▶ 第1Qは、SSC社にてフロリダ産オレンジの不作により原料コスト高騰 → 販売価格見直し等、鋭意取組



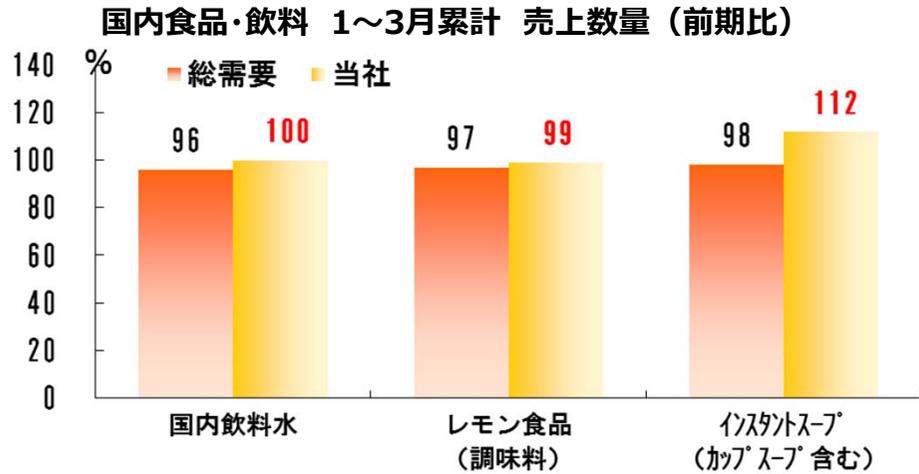
SAPPORO

2015年度 第1四半期 事業別トピックス (3)

食品・飲料事業

➤ **レモン飲料、無糖茶が牽引し、国内飲料売上数量は前年並みをキープ**

＜国内食品・飲料＞「ポッカサッポロフード&ビバレッジ社」



※総需要データ 出典：インテージ SRI「SM」「CVS」業態計
レモン食品市場 (当社定義) インスタントスープ市場 2015年1月～2015年3月
累計販売金額前年比

＜主要カテゴリーの概況＞

- 国内飲料：前年の反動はあったが、強みのレモン飲料、無糖茶（緑茶・ウーロン茶）が牽引し、売上数量920万函（前期比100%）、総需要（前期比96%）を上回る
- レモン飲料：「ぽっかぽかレモン」、新製品「キレートレモンエナジエ」貢献し売上拡大、前期比137%
- レモン食品：「塩レモン」の発売など、レモンの新しい用途を提案 前期比99%
- インスタントスープ：「じっくりコトコト こんがりパン」シリーズなどのラインアップ強化、前期比112%

＜海外飲料＞「ポッカコーポレーション・シンガポール社」

- シンガポール国内、輸出とも伸長
売上高前期比107%（現地通貨建て）

＜インドネシアに製造・販売会社設立へ＞

- 「PT DIMA INDONESIA」との合併、50%出資
- インドネシア国内販売向け製品の工場建設を計画
- ハラル認証を取得予定





SAPPORO

2015年度 第1四半期 事業別トピックス (4)

外食事業

<国内外食事業>

2015年1~3月国内全店売上は前期比100%



- 銀座・新橋の基幹店舗が入居ビル再開発に伴い休業したが、景気回復、前年大雪の裏返しもあり好調
- 既存店売上は前期比106%
- 原材料費、人件費の高騰、不採算店舗の閉店進める

<海外外食事業>

2015年3月末店舗数：シンガポール 15店舗

- ・「銀座ライオン」(ビヤホール)：2店舗
- ・「とん吉」(トンカツ)：4店舗
- ・「ドマーニ」(イタリアン)：1店舗
- ・「リヴゴーシュ」(洋菓子)：8店舗

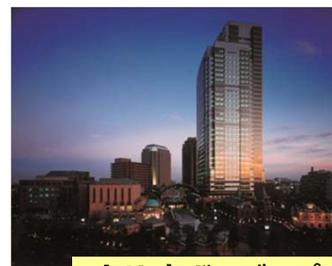
➤「RIVE GAUCHE」
(リヴゴーシュ)
1店出店



不動産事業

<恵比寿ガーデンプレイス>

- 昨年5月末の大型テナントの賃貸契約終了後、テナントリーシングは順調に進み、稼働率は回復
- バリューアップ推進
 - 3月に新しいコンセプトの映画館オープン
 - 6月オープン目指し地下1F飲食施設リニューアル

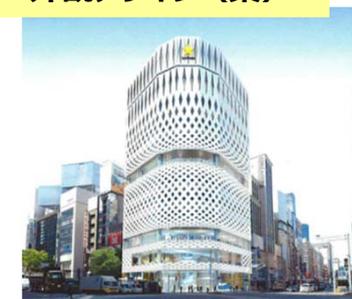


恵比寿ガーデンプレイス

恵比寿
ガーデンシネマ



銀座5丁目再開発
外観デザイン (案)



<銀座5丁目再開発計画>

- 2016年夏の開業をめざし、3月に新築工事着手
 - 銀座の中心・銀座四丁目交差点に面する敷地の再開発計画
 - 地下2階11階建 延床面積4,232㎡⇒7,082㎡
 - 銀座の新しいランドマーク、情報発信拠点となる商業施設へ

選択と集中の実行：「渋谷桜丘スクエア」売却

- 現在の不動産市況と将来的な収益性を勘案して信託受益権を売却
- 譲渡価格170億円、特別利益73億円を計上



2. 2015年度 第1四半期 決算概況



SAPPORO

2015年度 第1四半期 決算概況(1)

当四半期決算特殊要因

<売上高>

<国内酒類事業> <外食事業>

- 「ニュー三幸社」セグメント変更
 - 国内酒類事業 → 外食事業にセグメント変更
 - 影響額 約**2億円**（前年に遡及して変更。営業利益の影響は軽微）

<国際事業>

- 「シルバー スプリングス シトラス社」連結取り込み期間変更
 - 従来、第1Qは前年10月～12月 → '14年10月～'15年3月の6カ月間を取り込み
 - 影響額 **+約27億円**（為替影響+4億円、合計**31億円**）
- 「カントリー ピュア フーズ社」新規連結
 - 株式を取得した'15年2月24日より連結開始
 - 影響額 **+約14億円**（為替影響+2億円を含む）

<食品・飲料事業>

- 海外外食事業を売却
 - '14年12月に香港の外食事業を売却
 - 影響額 **▲約13億円**（営業利益の影響は軽微）

<不動産事業>

- スポーツ事業売却及び物件流動化
 - '14年12月にスポーツ事業売却及び一部賃貸物件売却
 - '15年2月に「渋谷桜丘スクエア」信託受益権売却
 - 影響額 **合計▲約5億円**（スポーツ▲3、物件売却▲2）

<営業利益>

<国際事業>

- 「シルバー スプリングス シトラス社」連結取り込み期間変更
 - '14年10月～'15年3月の6カ月間を取り込み
- 「カントリー ピュア フーズ社」新規連結
 - 株式を取得した'15年2月24日より連結開始
- 影響額 **合計▲約2億円**

<不動産事業>

- スポーツ事業売却及び物件流動化
 - '14年12月にスポーツ事業売却及び一部賃貸物件売却
 - '15年2月に「渋谷桜丘スクエア」信託受益権売却
 - 影響額 **合計▲約1億円**

<為替の影響>

- 売上高 約**+19億円**（国際+15、食品・飲料+4）
- 営業利益 軽微なマイナス

	2014年	2015年
期中平均レート		
US \$	102.78	119.17
CAN \$	93.10	96.00

(1～3月)



SAPPORO

2015年度 第1四半期 決算概況(2)

(単位：億円)

	2014年度 実績	2015年度 実績	前期比 (額/率)	
国内酒類事業	590	512	▲78	▲13.3%
国際事業	104	160	55	53.3%
食品・飲料事業	298	293	▲4	▲1.7%
外食事業	58	58	0	0.4%
不動産事業	56	47	▲8	▲15.7%
その他事業	13	13	▲0	▲0.3%
連結売上高	1,120	1,084	▲36	▲3.2%
のれん償却前営業利益	▲7	▲33	▲26	—
国内酒類事業	▲11	▲23	▲11	—
国際事業	▲8	▲12	▲3	—
北米他	▲3	▲6	▲3	—
ベトナム	▲5	▲6	▲1	—
食品・飲料事業	▲7	▲12	▲4	—
外食事業	▲3	▲3	▲0	—
不動産事業	22	17	▲5	▲24.5%
その他事業	0	▲0	▲0	—
全社	▲8	▲8	0	—
連結営業利益	▲17	▲43	▲26	—
連結経常利益	▲23	▲45	▲22	—
連結四半期純利益	▲38	8	46	—

➤ 売上高：対前年 減収

- ・国内酒類事業：ビール類の売上数量は前年の消費増税前の駆け込み需要の影響で前年同期を大きく下回る。
- ・国際事業：「SSC社」の連結取り込み期間変更により6カ月分を連結、また、「CPF社」の新規連結を2月24日より開始したため大きく前年同期を上回る。
- ・食品・飲料事業：海外飲料、国内外食で売上高は増加したが、前年の香港外食事業売却により減収

➤ 営業利益：対前年 減益

- ・国内酒類事業：販促費を始めとするコスト削減を行ったがビール類の減収が大きく損失額増加
- ・国際事業：米国飲料事業のオレンジ原価高騰を受け損失額増加
- ・食品・飲料事業：国内飲料の売上数量は前年並みに推移したが、原価高等のため損失額増加
- ・不動産事業：前年・本年の物件売却及び「恵比寿ガーデンプレイス」の一時的な稼働率低下により減益

➤ 当期純利益：対前年 増益

特別利益：本年「渋谷桜丘スクエア」の信託受益権売却により売却益73億円計上

特別損失：前年「サッポロ銀座ビル」再開発に伴う解体・撤去費用等23億円計上



SAPPORO

2015年度 第1四半期 決算概況(3)

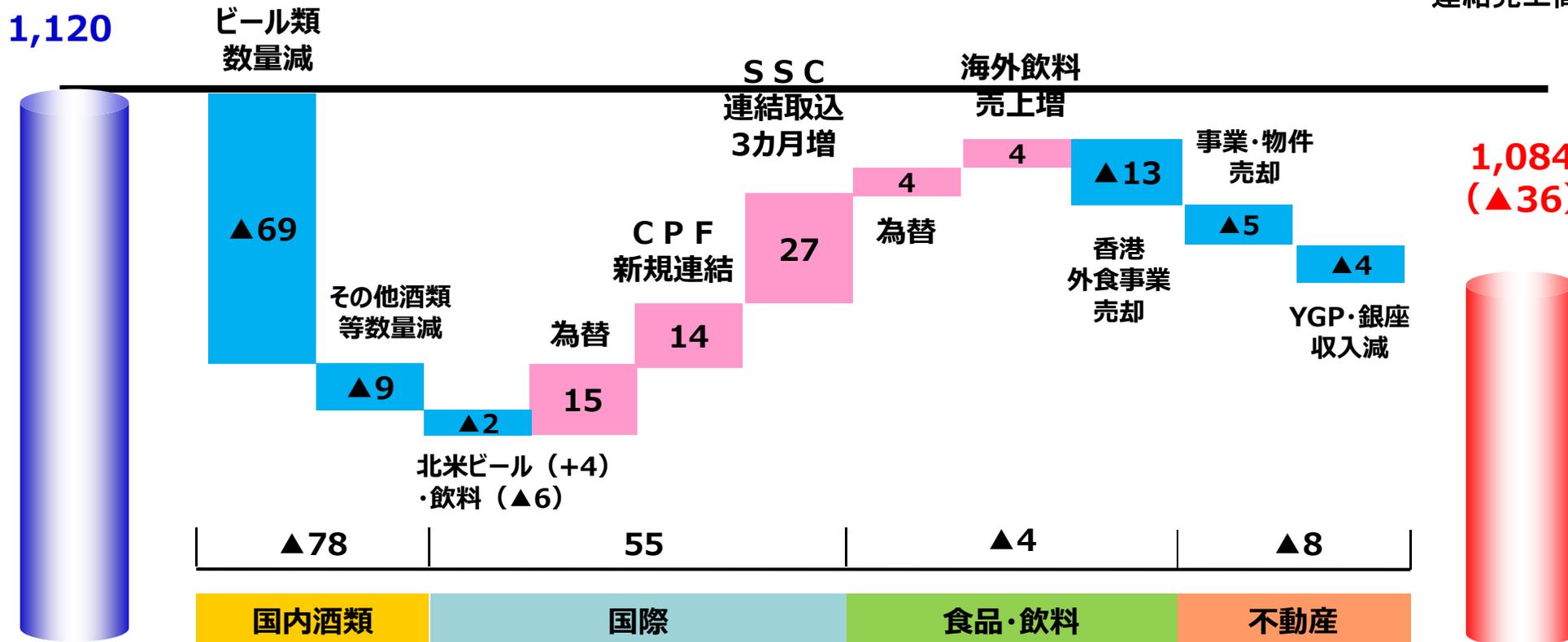
売上高増減主な要因

増加 (pink box) 減少 (blue box)

[単位：億円]

2014年1~3月
連結売上高

2015年1~3月
連結売上高





SAPPORO

2015年度 第1四半期 決算概況(4)

営業利益増減要因

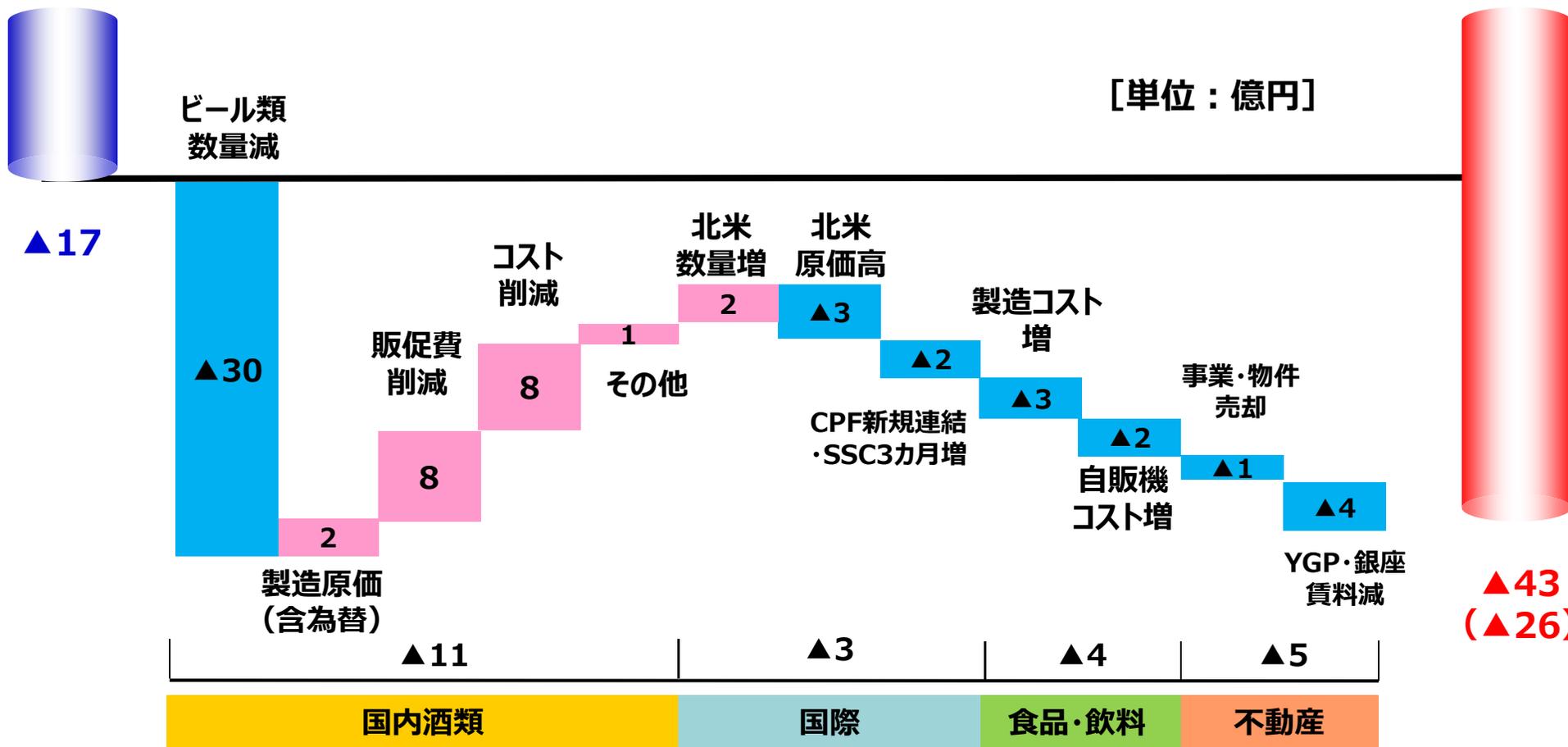
2014年1~3月
連結営業利益

増益

減益

2015年1~3月
連結営業利益

[単位：億円]





SAPPORO

2015年度 第1四半期 決算概況(5)

戦略投資の進捗状況（支払ベース・経常設備投資含む）

① <設備投資・リース料> 連結合計で約 94 億円

- 有形固定資産・無形固定資産・リース料 等

<主な内訳>

- 尾島工場 紙パックライン更新（国内酒類） 約3 億円
- 名古屋工場 隣地購入（食品・飲料） 約3 億円
- 銀座5丁目開発計画（不動産） 約3 7 億円
- 恵比寿ファーストスクエア（不動産） 約1 5 億円
- 恵比寿ガーデンプレイスバリューアップ（不動産） 約7 億円
- リース料（食品・飲料／他） 約8 億円

② <その他投資> 連結合計で約 84 億円

- 長期前払費用・投資有価証券・支払補償 等

<主な内訳>

- 長期前払費用（国内酒類/食品・飲料） 約1 5 億円
- 子会社株式 約5 8 億円
- 投資有価証券等 約1 0 億円

①+② <2015年1~3月 戦略投資実績 合計>

（支払ベース・経常設備投資含む）

- 約 178 億円

格付けの状況

<JCRによる格付け>

- 2015年5月8日現在：A-（安定的）

<R&Iによる格付け>

- 2015年5月8日現在：BBB+（安定的）

長期戦略投資の方向性

- **引き続き、成長を目指し、積極的に成長戦略投資を実施**
- **2012年から2016年の戦略投資規模としては、1,500億円～2,000億円（基本的に営業キャッシュフローの積み上げ）を想定**
 - 経常設備投資（戦略投資規模の約半分）を含む
 - 2012年戦略投資実績：約657億円
 - 2013年戦略投資実績：約235億円
 - 2014年戦略投資実績：約295億円
 - **2015年戦略投資実績：約178億円（計画351億円）**
(計画内訳：設備投資198億円、その他の投資153億円)

参考。 ①サッポログループ経営計画 2015年-2016年

※2/12発表数値より変更ございません。

2015-2016年 現事業ベース計画

経営計画	2014年実績	2015年目標	2016年目標	新経営構想
連結売上高 ※酒税込	5,187 億円	5,457 億円	5,795 億円	6,000 億円
連結営業利益 (のれん償却前)	184 億円	207 億円	280 億円	400 億円
連結営業利益	147 億円	163 億円	235 億円	
連結経常利益	145 億円	152 億円	221 億円	—
連結当期純利益	3 億円	80 億円	114 億円	—
D/Eレシオ	1.5 倍	1.3 倍	1.2 倍	1 倍程度
ROE (のれん償却前)	2.7 %	7.8 %	9.6 %	
ROE	0.2 %	5.0 %	6.9 %	8 %以上

※為替レート換算：2015-2016年 US\$=¥113.00 CAN\$=¥99.00



SAPPORO

2015-2016年 現事業ベース計画 -セグメント別-

経営計画		2014年実績	2015年目標	2016年目標
売上高	国内酒類	2,818 億円	2,902 億円	3,050 億円
	国際	496 億円	678 億円	760 億円
	食品・飲料	1,334 億円	1,337 億円	1,417 億円
	外食	263 億円	272 億円	275 億円
	不動産	215 億円	208 億円	228 億円
	その他	59 億円	60 億円	65 億円
	連結合計	5,187 億円	5,457 億円	5,795 億円
営業利益	国内酒類	102 億円	95 億円	120 億円
	国際	1 億円	10 億円	26 億円
	食品・飲料	1 億円	7 億円	14 億円
	外食	2 億円	9 億円	13 億円
	不動産	76 億円	79 億円	99 億円
	その他	1 億円	2 億円	2 億円
	消去全社	▲39 億円	▲39 億円	▲39 億円
	連結合計	147 億円	163 億円	235 億円
	連結合計 (のれん償却前)	184 億円	207 億円	280 億円

※為替レート換算：2015-2016年 US\$=¥113.00 CAN\$=¥99.00



SAPPORO

参考.②2015年度 第1四半期 決算補足（事業概況）

※各事業の採算状況につきましては、〈決算短信補足説明資料〉もご参照ください



補足資料(1) 国内酒類事業

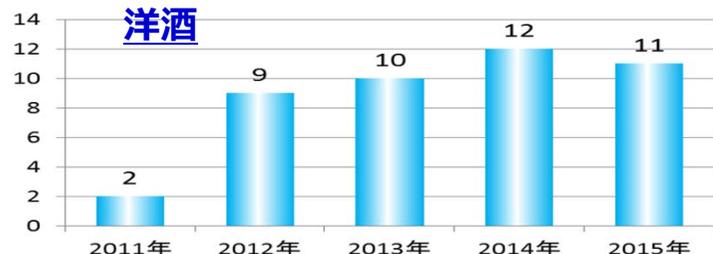
SAPPORO

ワイン

1~3月販売金額(億円)



洋酒



和酒



RTD



多層化の推進

➤ **昨年の駆け込み需要の反動があり、売上高は減少するが、各カテゴリーで基幹商品を伸ばす**

➤ **ワイン**：国産ワインでは、国産ぶどう100%プレミアム「グランポレール」シリーズから「グランポレール 安曇野池田ヴィンヤード」を発売、好評を得る。前期比 **91%**

➤ **洋酒**：世界No.1ラム「バカルディ」（2011年から提携）を使用した「モヒート」など、同ブランド中心に売上高は前期比 **90%**

➤ **和酒**：甲類乙類混和（芋）No.1の「芋焼酎 こくいも」が牽引、梅酒は前期比111%で推移、売上高は前期比 **94%**

➤ **RTD**：コラボ商品「サッポロ 男梅サワー」（2013年9月より通年発売）が引き続き好調。売上高は前期比 **98%**



SAPPORO

補足資料(2) 国際事業

「カンントリー ピュア フーズ」概要

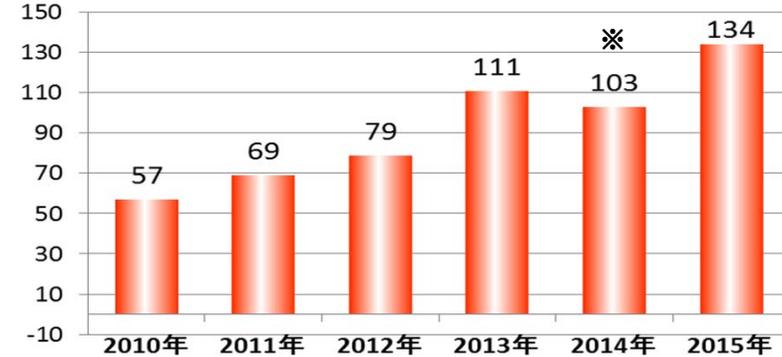
CPF社概要	主にアメリカ国内の教育機関や医療機関等非商業機関への業務用販売に強みを持つほか、大手組織小売チェーンへのP B商品や大手飲料メーカーの受託製造なども手掛ける
所在地	オハイオ州 アクロン
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・業務用（学校給食、病院給食）、果汁飲料の製造販売 ・小売りチェーンP B果汁飲料の製造販売 ・飲料メーカー果汁飲料の受託製造
生産拠点	4工場（オハイオ州アクロン、フロリダ州デラント、コネチカット州エリントン、テキサス州ヒューストン）
売上高	183億円（2013年12月期）



「SAPPORO」ブランドの海外展開

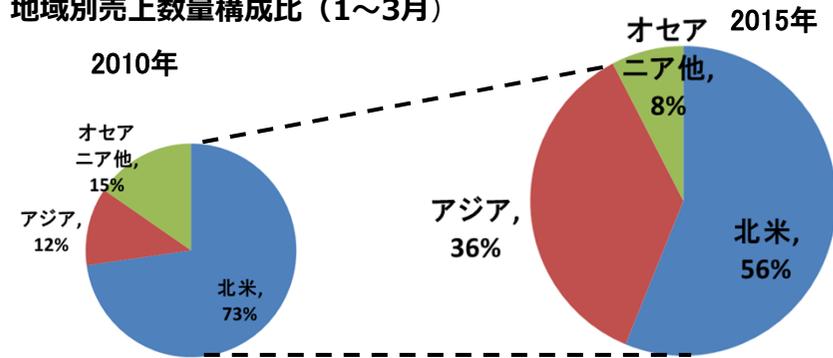
「SAPPORO」ブランド海外売上数量の推移（1～3月）

(万函)



※2014年：
北米・寒波
ベトナム・
テト商戦短
期化の影響

地域別売上数量構成比（1～3月）



北米：カナダ、アメリカ

アジア：ベトナム、シンガポール、韓国他

オセアニア他：オーストラリア、欧州他



SAPPORO

補足資料(3) 食品・飲料事業、不動産事業

食品・飲料事業

<海外飲料事業：ポッカコーポレーション・シンガポール>

<売上拡大に向けた製造体制の充実>

- マレーシアに新工場建設、'14年10月より稼働
- ミャンマーでライセンス製造契約、'16年新工場稼働を目指し建設工事中
- インドネシアで現地企業と合併会社設立、'16年稼働目指し上期中に工場着工予定

<シンガポールNon-Chilled Juice市場>

12カ月連続マーケットシェアトップ※達成

* 2015年3月までの12ヶ月間のNielsen MarketTrack データに基づく(Copyright C 2015, The Nielsen Company)



<国内外食事業：(株)ポッカクリエイト>

- 「カフェ・ド・クリエ」新規エリアへの出店、新メニューの提案を積極的に展開、売上高は前期比110%と好調
- FCサポート体制の強化、人材育成・教育を推進
- 病院内、郊外型など新しいマーケットでの展開を図る

店舗数：180店（2015/3月末現在）
 （直営：88店舗 FC：92店舗）
 北海道2店 関東100店 東海37店
 関西30店 九州8店 四国3店



不動産事業

主要物件概要・稼働率：<1～3月平均・入居ベース>にて記載

都内23区主な賃貸物件	敷地面積 (㎡)	延床面積 (㎡)	平均稼働率 (%)	階数
恵比寿ガーデンプレイス ⁽¹⁾	56,943	298,007	87%	地下5階付40階建
恵比寿ファーストスクエア	2,596	15,496	100%	地下1階付12階建
恵比寿スクエア	1,561	9,126	100%	地下1階付7階建
ストラータ銀座 ⁽²⁾	1,117	11,411	100%	地下1階付13階建

敷地面積は<公簿面積>、延床面積は<建築確認面積>で記載

(1)：「階数」はオフィス棟部分のみ、「稼働率」はオフィス区画にて記載

(2)：100%持分にて記載。当社持分は、土地922㎡（区分所有）、建物89.72%（共有持分）

<恵比寿ファーストスクエア>

- '14年9月竣工、**満室稼働にて推移** 恵比寿エリアの新拠点となる
- **延床面積10,400㎡⇒15,496㎡、本年より通年稼働**

恵比寿ファーストスクエア



<賃貸等不動産2014年12月末時点>

連結貸借対照表計上額：約2,078億円

期末時価：約3,482億円



潤いを創造し 豊かさに貢献する



本資料で記載している業績予測ならびに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測であり、潜在的なリスク・不確実性が含まれています。

そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記載されている将来見通しとは、大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。